

## C15b 科学館側から見た公開セミナー「天文学の最前線」

野田 学 (名古屋市科学館) ほか名古屋市科学館学芸課天文係、名古屋大学大学院理学研究科

名古屋大学と名古屋市科学館の共催事業、公開セミナー「天文学の最前線」は1992年にうぶ声を上げて以来、今年で11年、11回目を迎えた。研究・高等教育機関である名古屋大学大学院理学研究科（素粒子宇宙物理学専攻）と社会教育機関である名古屋市科学館（天文担当部門）が協力して、最先端の天文学の研究成果をわかりやすく解説するこの種の取り組みは、始めた当時は大変まれで、天文学の教育・普及活動の草分け的存在として親しまれてきた。当初より

- ・新しい教材や知識を求めている小中高校の教員
- ・大学での研究の様子を知りたがっている高校生
- ・最新の宇宙像を求め一般社会人

を主要なターゲットとしつつも少人数のエリート養成的なものでなく、できるだけ広く門戸を開くという明確なコンセプトの持ち、夏休み期間中に3日間連続で、講演だけでなく、プラネタリウムや研究室での実験実習も行うユニークな構成になっている。

当セミナーの詳細は、本企画セッションの基調講演に譲ることとし、ポスター発表では社会教育施設としての科学館から見た公開セミナーを、10年間のデータも含めて紹介する。